

# 国民健康保険制度が激変!!

## 「広域化」で約2万7千円の値上げ? (1世帯当たり)

会社を退職した方、自営業者や農家などが加入する国民健康保険(以下国保と略)。吹田市では約5万世帯、つまり人口の40%が国保に加入されています。この国保、一般の社会保険と比べて保険料が高いので全国的に払えない人が続出。最近では「無保険の子ども」が社会問題化しました。そんな国保が、さらに激変しそうな状況です。キーワードは「後期高齢者医療」と「広域化」。さて何が問題になっているのでしょうか?



高過ぎる保険料に苦情が殺到((国保課窓口)

### 繰入金減少で 保険料は年々上昇

「ムチャクチャ高いで!というのが実感ですわ」。こうぼやいて今年度の保険料決定通知を見せてくれたのは、吹田市内本町で美容室を営んでいるKさん。昨今の不況を反映して売り上げは低迷。年間200万円少しの所得に、国保料金は何と27万8千円。少ない所得から国保料、税金、年金掛け金などを支払えば、肝心の生活

費が底をついてしまう。なぜこれほど国保料が高いのかというと、1980年代から国が補助金を大幅にカットしているからだ。サラリーマンが加入する社会保険は、労使折半で保険料を負担する。国保の場合は、使用者にあたるのが国になるので、本来なら社会保険並みに50%を補助すべきという考え方も成り立つ。

ところが実際に行われたのは、各市町村の国保会計への国庫支出は、この30年間で58%から25%へ削減され、その結果、吹田市などの自治体国保が赤字に転落し、保険料が高騰したのだ。そんな中、かつての吹田市は国保財政を維持するために、一般会計からかなりの金額を繰り入れてきたのだが(図参照)、阪口市政に



国保料の引き下げを求める1万筆超の署名を吹田市に手渡した

なっており、その繰入金も減少傾向。結果として保険料は年々上昇してきた。

### 国保料を府内統一 またまた負担増に

そして今、難題が吹田市の国保を襲っている。それは「広域化」。政権交代時の民主党のマニフェストには、はっきりと

「後期高齢者医療の廃止」を掲げていたが、廃止とセットで提案されたのが「国保の都道府県運営」。つまり吹田市や摂津市が運営している国保を、大阪府で一元化するというのだ。

何でそれが問題なの?

実は問題が山積している。まずは平均保険料。08年のデータでは、吹田市の平均保険料は1世帯あたり15万60円。府下全体では15万8千949円に跳ね上がる。つまり吹田市は約9千円安いのだ。これが大阪府で「広域化」されると、吹田市の国保料金は「平均値」まで引き上げられる可能性が出てくる。さらに「一般会計からの繰り入れ」が全

**国保料の府内統一 検**  
府、年内に新制度提  
市町村長協議会  
国保保険料統一化で合

**国保保険料統一化で合**  
橋下知事と各市町  
強で倒壊  
保険料減免も全廃  
国保崩す  
人救えない制度  
「国保保険料の統一」合意  
年内に制度設計  
9/20-10/3 消費増税阻止・危機打開めざす業中行動

## 1世帯あたりでの一般会計からの繰入金

[単位:円]

平成9年度	78,020
平成11年度	59,112
平成15年度	57,301
平成16年度	55,879
平成17年度	49,595
平成18年度	46,715
平成19年度	41,726
平成20年度	51,716

## 吹田市国民健康保険財政の 歳入に占める一般会計繰入金の割合

(平成19年度までは決算額、平成20年度は予算額)

単位:千円

年度	歳入合計	一般会計繰入金	割合
平成9年度	18,595,313	3,644,238	19.60%
平成10年度	19,489,553	3,532,925	18.13%
平成11年度	20,549,931	3,037,573	14.78%
平成12年度	21,509,922	3,004,223	13.97%
平成13年度	22,947,787	3,115,473	13.58%
平成14年度	23,233,015	3,258,279	14.02%
平成15年度	25,838,577	3,457,713	13.38%
平成16年度	27,226,944	3,444,420	12.65%
平成17年度	28,149,902	3,110,769	11.05%
平成18年度	29,549,329	2,955,596	10.00%
平成19年度	30,709,728	2,954,515	9.62%
平成20年度	31,696,265	2,660,751	8.40%

しかし今はリーマンショック後「10年一度の大不況である。これ以上市民負担を増やせば、消費が冷え込み、廃業者が増え、自殺者も増えるのではないか?」2010秋、緊急に国保料の引き下げを求める署名がスタート

疑問だらけの「国保広域化」。わが吹田市長はどのように考えているのだろうか?編集部の手に「大阪社会福祉推進協議会」が

まとめた資料「国保広域化? 本当の狙いは何か」がある。この中に今年7月22日に開かれた「大阪府知事と市町村長の協議議事録・要旨」がある。これによると、知事「繰り入れはやるべき。府下で300億くらいですか。やってないのは7団体くらい。繰り入れをやめて保険料率は統一で決めるということをやれば、繰り入れをやっている団体は、保険料は上がるんですが、それは「大阪府が決めた方針」で耐えていただけるかどうかなんです」と。

この発言を受けた吹田市長は、「府下的に一元化されたら、吹田市民の保険料は高くなると思うが、それはやむをえない」。えっ?「やむをえな

い」ってちょっと待って...。確かに今の吹田市財政は、年々厳しくなっている。しかしまだ吹田市は他市に比べて財政的な余裕がある。操車場跡地開発で多額の税金を使う前に、国保への繰り入れを維持しても良いのではないか?

この秋、大阪保険医協会、大阪商工団連合会などが呼びかけて「国保広域化」値上げに反対し大阪の国保を守る実行委員会」が結成された。この実行委員会が呼びかける署名や集会などで、幅広い府民の「国保を守れ!」という運動を進めていかなければ、私たちの生活はますます苦しくなってしまうのだ。